

第4章 日本のロヒンギャ

日本にも 300 人ほどのロヒンギャが暮らしていて、群馬県館林市がコミュニティの中心地となっている。彼らの中には「仮放免」など法的に不安定な地位にいる人が少なくない。2017 年にミャンマーで大虐殺が起きると、日本のコミュニティ内でも不安が広がった。同胞を勇気づけたいと、ロヒンギャ 2 世の水野守さん（高校 2 年生）がサッカーチームを創設した。チーム名はアラビア語で「平和」を意味する「サラマト FC」。その一冬の戦いを追った。

写真＝城内ジョースケ・鶴颯人



サッカーチームを創設した水野守さん。「みんなを笑顔にしたい」と話す。



同じミャンマー出身のチン族との親善試合が昨年 11 月に開催された。



試合は 3 - 4 で敗れた。だがサラマト FC のメンバーの表情は晴れやかだった。



試合後に両チームで記念写真。チン族もまたミャンマーでは迫害を受ける民族である。